

令和2年度～令和3年度 石川県社会教育委員の会議のまとめ(概要) ①

「住民の主体的な参画による持続可能な社会・地域づくりを目指して」
～地域づくりに向けた人づくり・つながりづくりの取組の在り方～

1 テーマ設定の理由

◇社会教育を取り巻く環境の変化と課題

本県の現状

- ・人口減少や高齢化、社会環境の大きな変化に伴い、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大。
- ・町内会等での役員の不足や同じ人が複数の団体を兼ねているなど地域活動の担い手不足。
- ・社会教育の中核的役割を担う公民館の首長部局への移管等

◇社会教育に期待される役割

人口減少や高齢化をはじめとする多様な課題の顕在化や、急速な社会経済環境の変化を受け、今後、我が国の地域社会においては、住民主体で課題や変化に対応することが求められる

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(H30.12 中教審答申)

社会教育を通じた「人づくり」や「つながりづくり」は、人口減少時代の地域が直面する様々な困難な状況の中で、地域を活性化し、住民が主体的に課題を発見し共有し解決していく持続的な「地域づくり」につながっていく

◇協議題設定の理由

地域課題の解決には、社会教育における学びを通じた住民主体の地域づくりが求められていることから、「地域づくり」に向けた「人づくり」・「つながりづくり」の具体的な方策を協議していくこととした。

2 協議・検討の経過

〈第1回〉 令和2年8月27日(木)「協議題説明と講演」

講演「人づくり・つながりづくりに向けた社会教育活動の在り方」 金沢大学 名誉教授 浅野 秀重 氏

- ・魅力ある地域づくりを進めるためには、住民との対話をコミュニケーションできる人や、話し合いをリードし、ファシリテートできる人、また、企画力をもつ人、地域資源や団体間をコーディネートできる人など、人材が必要である

〈第2回〉 令和2年10月30日(金)「地域づくりに向けた人づくり・つながりづくりの取組の現状と課題」

石川県公民館連合会 関戸委員
「公民館活動における人づくり・つながりづくりについて」
・公民館は、様々な団体と連携し、開かれ、つながる新しい社会教育を目指していく必要があり、つながりをつくり出すことが、新しい時代の生涯学習・社会教育の鍵である。

みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会 奥野委員
「子育て支援における人づくり・つながりづくりについて」
・子どもが将来社会教育に関わり主体となるには、成長に合わせ地域の様々な人との出会いが必要であり、子どもに関わる地域の団体同士が情報交換を行い、連携していくことが重要である。

〈第3回〉 令和3年2月1日(月)「地域づくりに向けた『人づくり』の在り方」

講義「学び、つながり、未来をつくる公民館」 岡山県岡山市立富山公民館 主任・社会教育主事 田中 純子 氏

- ・地域の担い手を育てる学びには、地域の現状を的確に見取り、現状と理想の地域像とのギャップを埋める実践力を養う学びが必要であり、持続可能な社会の実現に向け生活課題や地域課題などに対し主体的に学び考え実践につながる学びなどが必要である。

〈第4回〉 令和3年3月25日(木)「地域づくりに向けた『つながりづくり』の在り方」

講義「地域づくりに向けた『つながりづくり』の方策と具体例」 文部科学省国立教育政策研究所総括研究官 志々田まなみ 氏
・つながりとは「日常の小さなコミュニケーション」「気軽に集まる・話す機会」「社会的な課題への意識を高める取組」「地域のヒト・コト・モノを知る機会」の4つ挙げることができる。

令和2年度の協議から見えてきたもの

「地域づくりに向けた人づくり・つながりづくりの具体的な方策の検討」

- 「担い手の育成」
・地域の現状を把握し、理想の地域像を描く学びや現状と理想のギャップを埋める「実践力」を養う学びが重要である。
- 「住民が議論する場の設定」
・つながりづくりのためには、日頃の小さなコミュニケーションや気軽に集い、関わる機会を大切することが重要である。
- 「事業の見える化」
・住民の主体的な参画を促すために事業の見える化が重要である。

令和2年度～令和3年度石川県社会教育委員の会議のまとめ(概要) ②

〈第5回〉 令和3年8月4日(水) 「地域づくりの具体の検討」

講義「主体的・協働的な地域づくりの出入口となる学習機会の創出のために」～広島版学びから始まる地域づくりプロジェクトを中心に～

広島修道大学 教授 山川 肖美 氏

- ・地域づくりを進めるために、社会教育を推進する人だけではなく、関わる人みんなが意識を共有するために事業の「見える化」が重要である。
- ・地域づくりに向けた学習機会には2つある。理想の地域になりたいというビジョンを共有する学びとビジョン達成につながる学びの場がある。

【共通理解】

- ・多くの公民館は、住民ニーズや地域の現状把握を行っていないことから、住民と意識共有を図った事業があまり行われていない。
- ・本県においても、**地域住民が地域課題解決に向けたゴールとプロセスを共有し、持続可能な取組とするための1つの手法として、事業が見える化できるシートが必要である。**

〈第6回〉 令和3年10月21日(木) 「企画シートの検討」

①地域分析シート…地域の現状や課題を把握し、課題解決に活かすための地域資源を洗い出す

②企画シート …課題解決に向けた取組内容・行程等を記載し、関係者で情報を共有

(対象地域) 公民館を単位とするエリア(公民館の事業の主たる対象となる区域)

(シート作成者) 公民館主事、市町社会教育主管課職員 社会教育関係団体代表(子ども会・PTA・老人会・婦人会・青年団等)

【共通理解】

- ・多くの公民館は、住民ニーズや地域の現状把握を行っていないことから、住民と意識共有を図った事業があまり行われていない。
- ・本県においても、**地域住民が地域課題解決に向けたゴールとプロセスを共有し、持続可能な取組とするための1つの手法として、事業が見える化できるシートが必要である。**

〈第7回〉 令和4年1月31日(金) 「企画シートの実用性について」「まとめ案について」

①「シートの有効性・改善事項等について」報告

- ・金沢市菊川公民館 原 恵子氏: PDCAサイクルに役立ちマンネリ化からの脱却に有効である。広く活用するには研修会が必要である。
- ・能登町教育委員会 寺口 学氏: 行政として補助金申請様式として活用できる。評価はいつ・誰がするのが分からない。

②「シートの活用に向けて」

- ・シート作成にあたり、より多くの地域住民(幅広い年齢層)の参加が重要である。
- ・1人で書くよりも、より多くの人で考える方がよい。その為には、各市町での研修会が開催されることが重要である。

【共通理解】

- ・シート名は「いしかわ地域づくりシート」※community development by learning (学びによる地域づくり) 愛称「CODEL」
- ・シートを活用する、公民館や団体がシートをアレンジして、より使い勝手がいいように

〈第8回〉 令和4年3月4日(金) 「協議のまとめ」

3 協議のまとめ

「いしかわ地域づくりシート(【地域分析シート】と【企画シート『CODEL CoDeL』])について

1. 内容: 地域課題解決に向けた取組内容・行程等を記載し、関係者で情報を共有する。

2. 発行部数: 2,000部

3. 配付先: 市町教育委員会、県内公民館、社会教育関係団体

4. 活用促進:
- (1) 県教育委員会ホームページへの掲載
 - (2) シートを用いた研修会の実施
 - (3) 各市町の要請に応じた研修会の開催

5. 期待される効果

- (1) 事業の見える化(現状把握→企画→実施→記録・ふりかえり)
 - ・住民の意識共有を図ることができる。
 - ・事業や活動を見直すきっかけとなる。(PDCAサイクル)
- (2) 地域人材育成
 - ・地域人材の発掘及び若者・青年層の参画
- (3) 地域の団体や住民のネットワークの構築
 - ・団体間の連携
 - ・公民館職員のコーディネート力向上などスキルアップ

4 今後の方向性

【今後の方向性】

- ・公民館や団体等が実情に合わせ、いしかわ地域づくりシートを使いやすいようにアレンジし活用できるようにする。
- ・各市町の公民館や社会教育関係団体等で広く活用できるように、研修会や出前講座を開催しシートの普及に努める。
- ・『現状把握』→『企画』→『実施』→『記録・ふりかえり』の実施過程と継続を大切にしたいシートとする。